

第44回



日本コミュニケーション障害学会 学術講演会

予稿集

The 44th Meeting of Japanese Association of Communication Disorders



撮影者：霞 徳太郎

- 会期 **2018年5月12日**  ・ **13日** 
- 会場 **北里大学相模原キャンパス 臨床教育研究棟 (IPE棟)**
- 会長 **石坂 郁代** 北里大学医療衛生学部 リハビリテーション学科
言語聴覚療法学専攻

第44回

日本コミュニケーション障害学会 学術講演会

予稿集

The 44th Meeting of Japanese Association of Communication Disorders

会 期：2018年5月12日(土)・13日(日)

会 場：北里大学相模原キャンパス 臨床教育研究棟 (IPE 棟)

会 長：石坂 郁代

北里大学医療衛生学部 リハビリテーション学科
言語聴覚療法学専攻

主 催：日本コミュニケーション障害学会

後 援：神奈川県言語聴覚士会

神奈川県教育委員会

相模原市教育委員会

日本吃音・流暢性障害学会

第44回日本コミュニケーション障害学会学術講演会 開催にあたって

第44回日本コミュニケーション障害学会学術講演会
会長 石坂 郁代

第44回学術講演会の開催にあたり、事務局を代表してご挨拶申し上げます。

みなさまは、学術講演会にどのようなイメージをお持ちでしょうか。研鑽の場、情報交換の場、成果発表の場…など、いろいろなことばが浮かんでくることと思います。今回私たちはそれらに加えて、連携を作る場、旧交を温める場など、領域や地域そして世代を越えて人と人をつなぐ場になることを願って、プログラムを企画いたしました。

特別講演「体の違いを映す言葉」は、新進気鋭の思索家伊藤亜紗先生(東京工業大学)が、「『言葉の違い』がどのように『体の違い』を映し出すのか、視覚障害と吃音を手がかりに、身体論の視点から考える」内容です。このような新鮮な切り口で言葉について考える時間を、みなさまと共有したいと思っております。

教育講演1では、日本の「超高齢社会」という問題に、聴覚の保障という点から切りこむ講演を、佐野肇先生(北里大学医療衛生学部)にお願いしています。聴覚障害領域では、高齢者の補聴が認知症の予防につながるということがトピックとなっています。障害の予防という点からも興味深いお話が伺えると期待しております。

教育講演2では、日常の臨床からどのように研究につなげていくのかという我々臨床家の悩みに答えていただく講演を、鈴木牧彦先生(北里大学名誉教授)にお引き受けいただきました。熱いハートを持った臨床家たちに、クールな研究への道をお示しいただけることでしょう。

ワークショップでは、山本直史さん(吉野内科・神経内科医院)と高橋宜盟さん(結ライフコミュニケーション研究所)というAACの専門家のお二人がタッグを組んで、最新の機器から透明文字盤までのローテクを、患者様に合わせてどう使っていくのかについて分かりやすく教えてくださいます。

ハートフルトークは、ご自身が小児領域のSTであり、超低出生体重児の母でもある山本実菜さんが、日々の子育ての中で感じたことを話してくださいます。気管切開をしている子どもさんの言語発達をどう促していくのかについて日々工夫を重ねてこられたことは、きっと聞く方々の深い共感を呼ぶと思います。

一般演題は、82演題を予定しております。小児・成人のどちらの領域においても充実した学術的交流ができますことを願っております。

神奈川県は海と山に恵まれ、名所旧跡が数多くあります。古都鎌倉(表紙は鎌倉の美男子です)、2020オリンピックのセーリング(ヨット)会場の湘南江の島、杉木立が美しい箱根など、学術講演会の合間に少し足を伸ばして気分転換されるのもお勧めです。多くの方々のご参加を心からお待ちしております。

最後になりましたが、本学術講演会の開催にあたりご協力とご支援を賜りましたみなさまに、心から御礼申し上げます。

第44回日本コミュニケーション障害学会学術講演会の 開催にあたり

日本コミュニケーション障害学会
理事長 大伴 潔

この度、日本コミュニケーション障害学会は第44回学術講演会を北里大学で開催することとなりました。言語聴覚士の養成課程を有する医療系大学で開催する最初の学術講演会となります。言語聴覚士の養成校にもそれぞれ強みとなる研究領域や、人・地域との結びつきなどがあり、それが今回の学術講演会でも教育講演や特別講演、実践セミナー、また、ハートフルトークというオリジナルのプログラムの講演者や内容にも反映されています。教育・福祉・医療等、社会の幅広い分野で取り組みが求められる言語・聴覚・コミュニケーションへの対応であるからこそ、いずれの年度のプログラム内容もその時々課題や問題意識を映しており、そこに毎年継続的に参加することの意義もあります。今年度の学術講演会も私たちに大いに刺激を与えてくれるに違いありません。

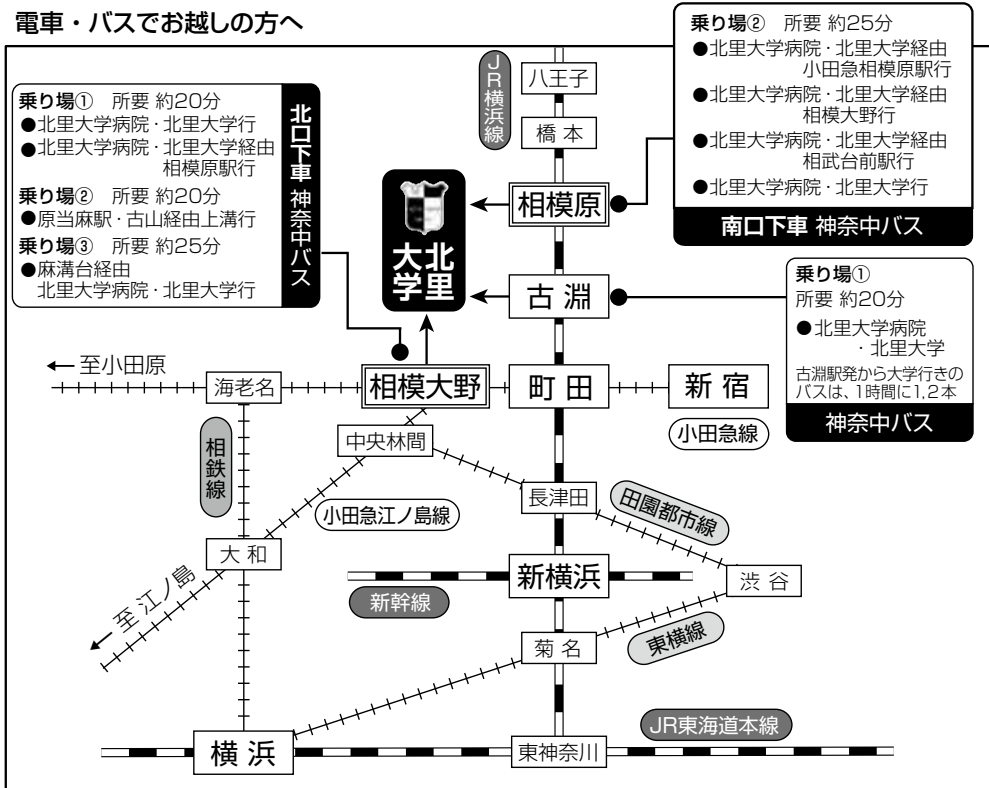
この数年間に、人工知能が脚光を浴びるニュースが続き、これからもAIの開発には限りがないように見えます。この一方で、人間自身に関する理解はどうでしょう。哲学として人を対象とし始めた時代から探求は続けられ、その洞察は確実に深まっているものの、新しい観点が次々と生まれは理論が書き替えられ、こちらも到達点は見えません。人ができることを再現するシステムが進化しても、コミュニケーションの主体である人間の理解は、生涯にわたる人の発達・変化ひとつを取ってもまだ不完全です。意思疎通に困難がある人々への支援は、私たち自身の理解を基盤にしています。本学会の活動は、そのような基礎研究から臨床・教育実践の展開まで幅広い視座を有しており、例年の発表演題の多様さにも反映されています。

一方で、研究発表に現れている内容は、コミュニケーションにかかわる人々の問題意識のごく一部に過ぎません。「氷山の一角」という言葉は社会的な出来事を指す文脈で使われる表現ですが、氷山のモデルは、発表者が水面から見えている部分であり、水面下には多数の人々の疑問や探求心がまだ隠れた状態であることを想像させてくれます。学術講演会に参加する人々が講演や研究発表に触発され、聞く側から次年度以降には発表者の側になるような循環・サイクルを期待します。また、多くの会員が水面から出て発信する側に回り、活発な情報発信と情報交換がなされることを願っています。

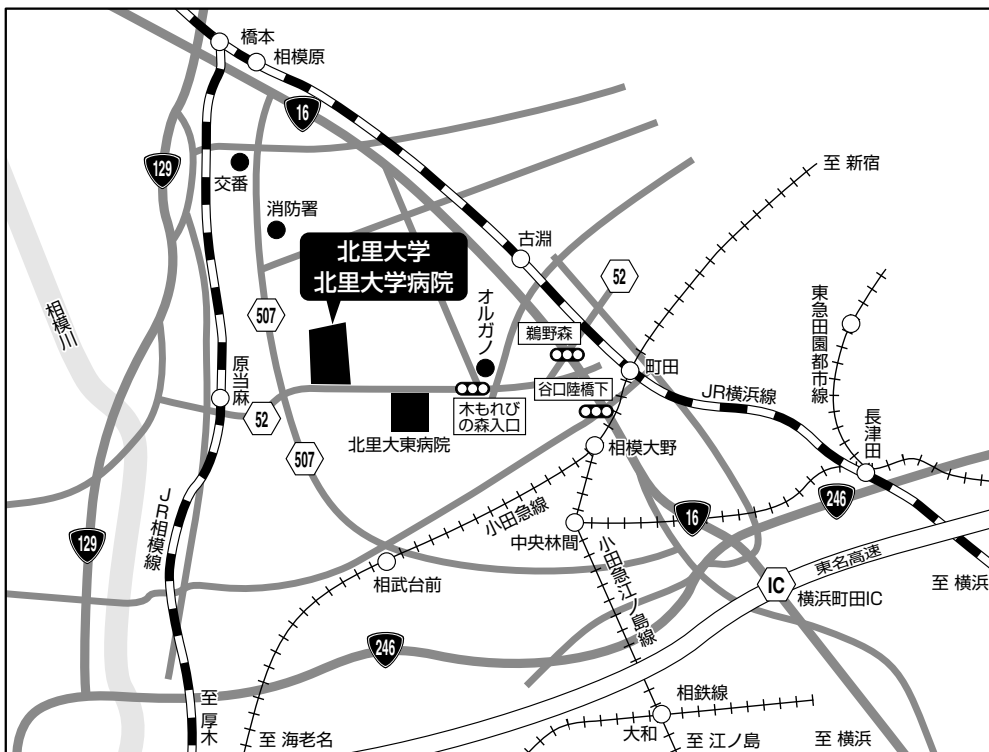
本学術講演会の開催に向けて、学術講演会長の石坂郁代先生をはじめとする事務局の方々が早くから準備を進めてくださいました。多忙な中で時間を割いて充実したプログラムと研鑽の場を提供していただいたことに心より御礼申し上げます。

交通案内

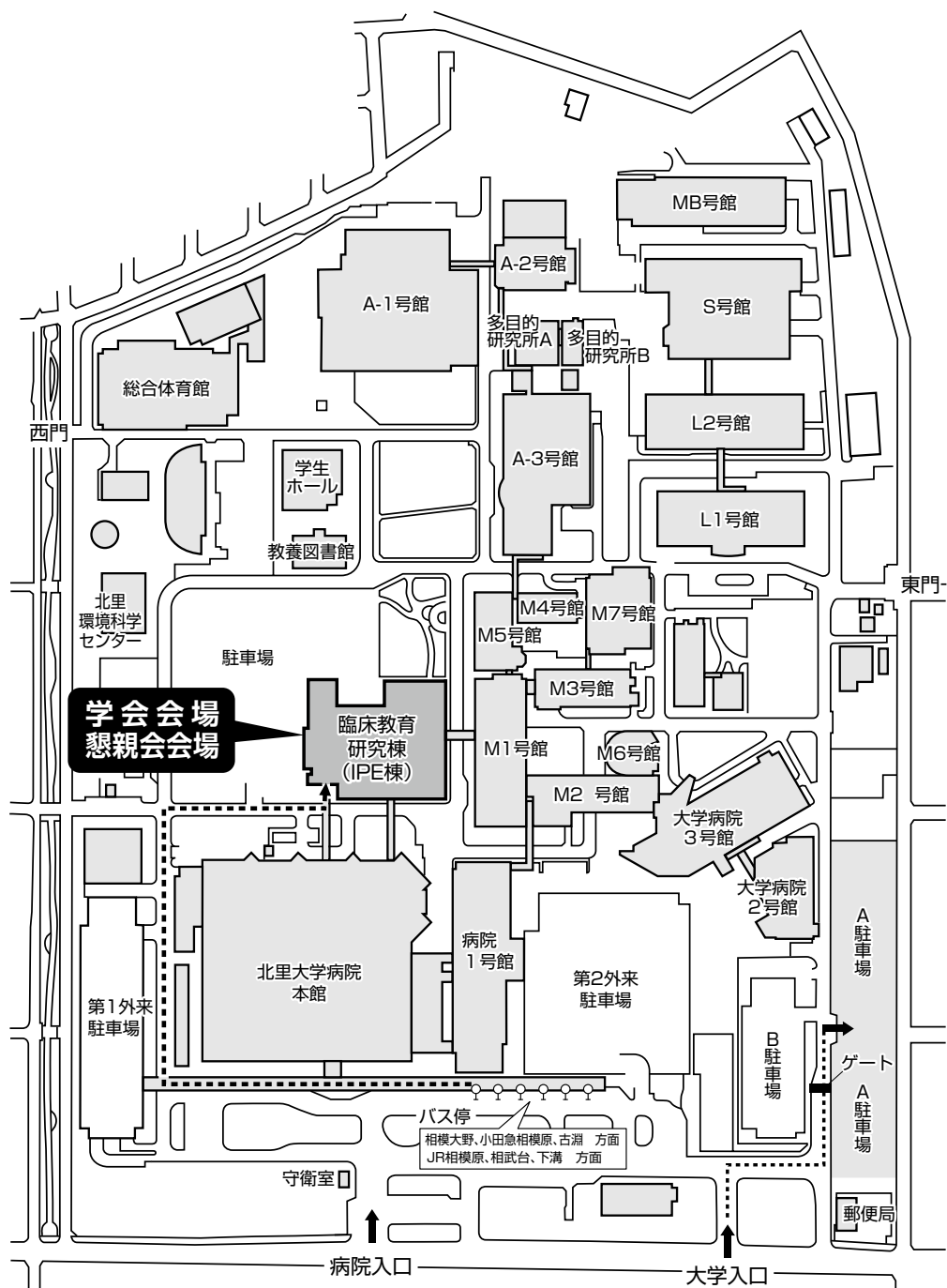
電車・バスでお越しの方へ



お車でお越しの方へ



会場案内

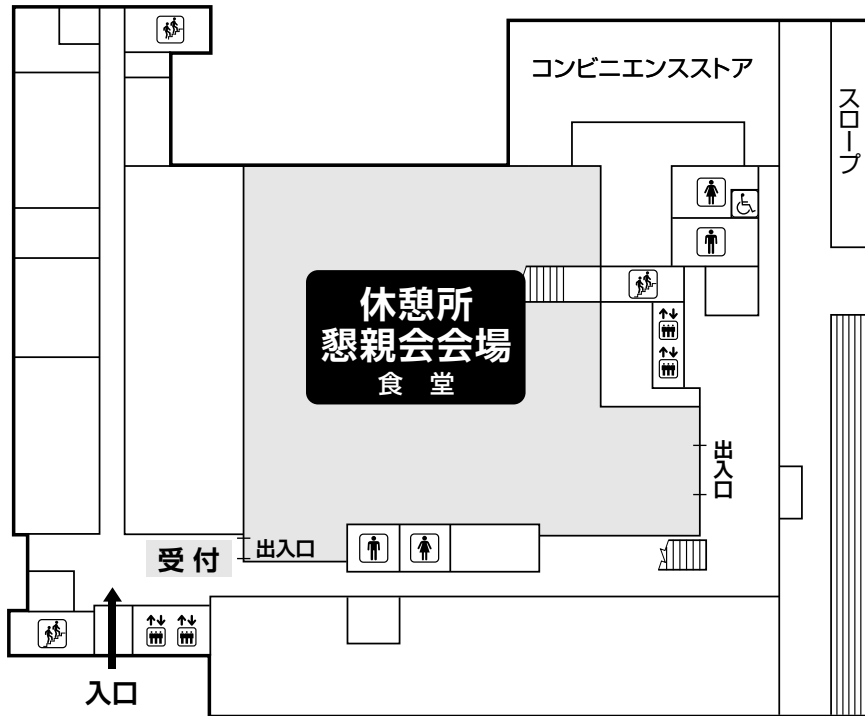


■お車でお越しの方はA駐車場をご利用ください。

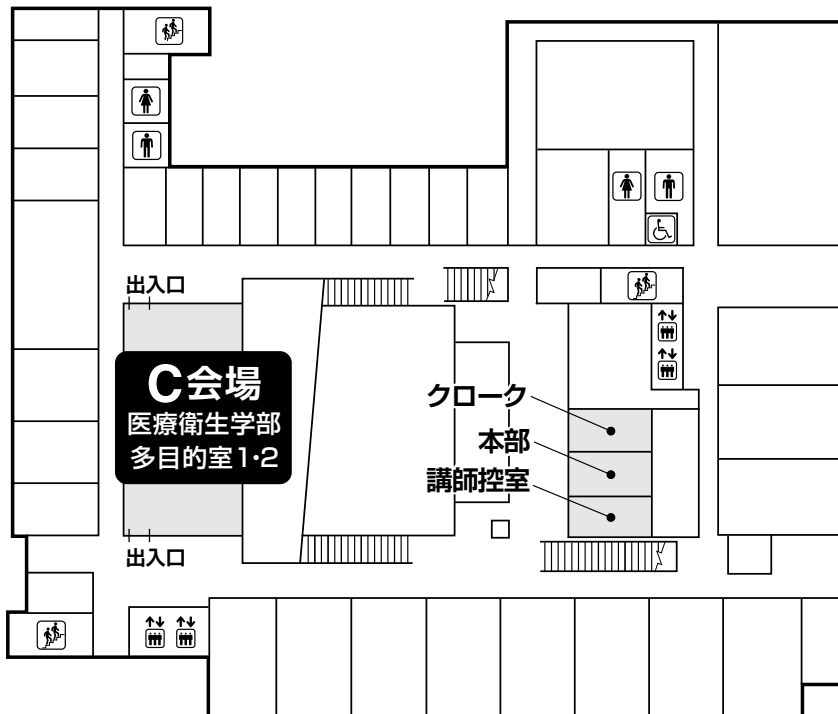
- 「北里大学正門」の信号より入り、ゲートで必ず「利用者駐車券」を受け取って、入構してください。
- 「利用者駐車券」はお帰りの際まで、大切に保管してください。
- 総合受付にて「利用者駐車券」をご提示の上、「無料駐車券」をお受け取り下さい。
- お帰りの際は、「利用者駐車券」と「無料駐車券」の2枚が必要となります。

※お車でお越しの方は、こちらの入口から入り、「A駐車場」を利用して下さい。

1F



2F



3F



5F



ご 案 内

■参加受付

1. 受付は5月12日(土)・13日(日)8時20分より行います。
2. 「参加受付」は、北里大学臨床教育研究棟(IPE 棟)1階に設けてあります。
3. 参加費および懇親会費は次の通りです。

会 員 10,000円

非 会 員 11,000円(予稿集は含みません)

学 生 3,000円(予稿集は含みません) ※学生証を呈示してください。

懇親会費 2,000円

4. 予稿集は、受付にて1冊1,000円で販売いたします。

■進 行

【口頭発表】

1. 座長の方へ

- (1) 開始予定の30分前までに参加受付フロア内の「講師・司会・座長受付」にて受付をお済ませください。
- (2) 開始予定の10分前には、次座長席にお着きください。
- (3) 1演題の発表は7分、質疑応答は3分です。
- (4) 質疑応答では、発言者の所属・氏名を確認してください。

2. 演者の方へ

(1) 口頭発表受付について

- ① 北里大学臨床教育研究棟(IPE 棟)1階に「PC 受付」がございます。
「参加受付」の後、各セッション開始30分前までに「PC 受付」をお済ませください。
但し、朝一番のセッションで発表される方は、準備の都合上、「PC 受付」を先に済ませ
てから「参加受付」を行なってください。
- ② 2日目に発表の方も1日目に受付可能です。

(2) 発表用データについて

- ① 口頭発表は会場設置のPC(Windowsのみ)を使用させていただきます。
- ② 用意しているコンピュータのOSとアプリケーションは以下の通りです。
OS: Windows10
プレゼンテーションソフト: Microsoft PowerPoint 2016
事前にご自身のPCにて必ず動作チェックを行なってください。

- ③ 演者の方は発表データを USB メモリーに保存し、「PC 受付」へお持ちください。USB メモリーは、必ず事前にウイルスチェックを済ませてからご持参ください。
※その他のメディアは受け付けられません。ご注意ください。
- ④ 動画・音声等を使用される場合は、必ず「動画」「音声」として挿入してください。元のデータから「リンク」させることはトラブルの原因となりますので避けてください。
- ⑤ ファイルの取り間違えを防ぐために、ファイル名を〔演題番号－発表者の姓〕に統一させていただきます（英数字は半角）。
例）演題番号 IB-07、北里太郎の場合は〔1B-07北里〕とします。
- ⑥ 文字化けを防ぐために、下記の OS 標準フォントをお使いください。
日本語：MS ゴシック、MSP ゴシック、MS 明朝、MSP 明朝
英 語：Arial, Arial Black, Century, Century Gothic, Times New Roman
- ⑦ 音声記号のフォントの多くは「特殊記号」ですので、PC が異なると文字化けの可能性が高くなります。お手数ですが音声記号は画像として貼り付けてください。
- ⑧ 発表データは作成に使用した PC 以外の PC にて動作確認をしてからお持ちください。

(3) 動作確認について

- ① 「PC 受付」で USB を提出される際に、受付にある PC にて動作確認を行なってください。
- ② 発表で動画・音声を再生する場合は、必ず「PC 受付」にてその旨お知らせください。
- ③ 発表データ（PowerPoint）は、動作確認後に各会場の PC のデスクトップにコピーします（コピーした発表用データは、学会終了後、事務局が責任をもって破棄します）。

(4) 口頭発表について

- ① PC の操作は演者ご自身でお願いします。操作支援・補助が必要な場合は「PC 受付」でご相談ください。
- ② 発表時間は7分、質疑応答は3分です。
発表終了1分前と終了時に合図をいたします。終了時間を厳守してください。

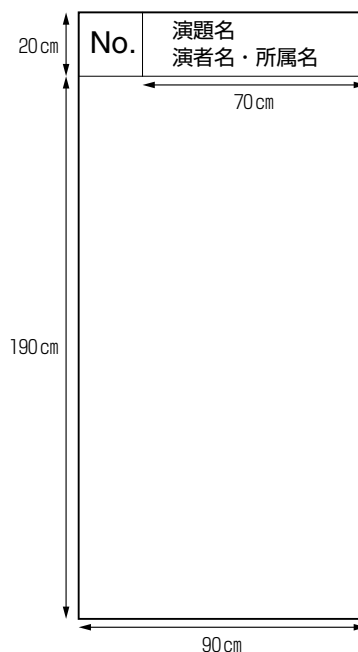
3. 質疑応答

- (1) 質疑応答は1演題につき3分です。
- (2) 質疑応答は座長の指示に従ってください。
- (3) 発言者は最初に所属・氏名を述べてください。

【ポスター発表】

1. ポスターの掲示作業について

- (1) ポスター発表の受付はございません。
- (2) 発表者は指定されたポスター会場内に設置してある所定の位置(縦190cm×横90cm：1面)に貼り付けてください。当日掲示用のマグネット類を用意いたしますのでご使用ください。
- (3) ポスターの貼り付けは、ご自身の発表日の10:30までをお願いいたします(ポスターの掲示は発表日のみです)。
- (4) 演題番号はパネルの左上に予め貼り付けてあります(20cm×220cm)。その横のスペース(縦20cm×横70cm)に演題名、演者名、および所属名を掲示してください。それ以外のスペースは、はみ出さない範囲でご自由にお使いください。



2. 質疑応答について

参加者と質疑応答する機会を設けますので、発表者は指定された時間の30分間、各ポスター前に待機してください。座長はおりません。自由にディスカッションを行ってください。

3. ポスター撤去作業について

- (1) 撤去作業は、以下の時間内で行ってください。
1日目(12日) 15:30～17:10、2日目(13日) 15:10～16:00
- (2) 上記時間帯に撤去されなかった場合は、事務局で廃棄いたしますのでご了承ください。

【学会誌用の抄録原稿】

発表者の方は、「コミュニケーション障害学」掲載用の抄録原稿を、以下の要領で提出してください。

1. 抄録テンプレート(Microsoft Word)を学術講演会ホームページからダウンロードしていただき、メールで件名「抄録原稿送付(演題番号)」とし、「添付ファイル」で事務局アドレス宛(jacd.meeting44@gmail.com)にお送りください。
締め切りは5月10日(木)正午です。
2. 抄録は『コミュニケーション障害学』(2018年12月末刊行予定)に掲載する予定です。

■お知らせ

1. 展 示

北里大学臨床教育研究棟 (IPE 棟) 3階ラウンジで書籍・機器の展示を行います。

2. 休憩室および昼食

(1) 休憩室は会場1階の食堂をご利用ください。

(2) 会場1階のコンビニエンスストアおよび食堂は、12日(土)のみ営業しております。13日(日)の営業はございませんが、そのまま休憩室としてご利用ください。

(3) 昼食のごみは各自お持ち帰りください。

3. 懇親会

12日(土) 18:40～20:00に1階食堂にて懇親会を行います。

会費は2,000円です。参加された皆さまが親睦を深める良い機会ですので、多数のご参加をお待ちしています。

4. お子様連れの参加者の方へ

(1) 託児室の設置はございません。

(2) 親子席のご案内

各会場出入り口付近には親子席を設けております。お子様と一緒に講演を聴講することが可能です。

(3) 授乳室とオムツ交換の場所に関しては、係のご案内いたしますので、受付までお声掛けください。オムツは各自お持ち帰りください。

5. 役員会、委員会

常任理事会 5月11日(金) 17:00～20:00
ユニコムプラザさがみはらミーティングルーム4

役 員 会 5月12日(土) 12:10～13:10
B会場(5階)

学術事業部会議 5月13日(日) 12:10～13:10
B会場(5階)

6. 総 会

日本コミュニケーション障害学会総会が開催されます。是非、ご出席ください。

日 時：5月13日(日) 13:20～14:20

会 場：A会場(3階 IPE ホール)

7. その他

- (1) クロークは、2階多目的室1にあります。
- (2) 拾得物・遺失物、学会本部に御用の方は、「総合受付」にお出てください。
- (3) お車でお越しの方へ

A 駐車場をご利用ください。

「北里大学正門」の信号より入り、ゲートで必ず「利用者駐車券」を受け取って、入構してください。「利用者駐車券」はお帰りの際まで、大切に保管してください。総合受付にて「利用者駐車券」をご提示いただき、「無料駐車券」をお受け取りください。お帰りの際は、「利用者駐車券」と「無料駐車券」の2枚が必要となります。

■分科会

本学会では、会員の自主的な研鑽を目的として、分科会、委員会、研究助成金の付与などの活動を推進しています。今学会では、12日(土) 17:10～18:30に以下の分科会を開催します。多くの皆様の参加をお待ちしています。

- | | |
|-----------------------------------|----------------------|
| ① 言語発達障害研究分科会 | A 会場(3階 IPE ホール) |
| ② 吃音および流暢性障害研究分科会 | B 会場(5階) |
| ③ 会話分析研究分科会 | C 会場(2階 医療衛生学部多目的室2) |
| ④ 重度重複障害のある子の
コミュニケーションを考える分科会 | B 会場(5階) |

※重度重複障害のある子のコミュニケーションを考える分科会
主催のイベント

日 時：5月13日(日) 10:00～14:00

場 所：1階食堂の一部

■講習会

5月12日(土) 17:10～18:30

口蓋裂言語検査講習会 C 会場(2階 医療衛生学部多目的室1)

日程表

第1日目 5月12日(土)

	A 会場 3階 IPE ホール	B 会場 5階	C 会場 2階 医療衛生学部多目的室1・2	ポスター会場 3階 チーム医療演習室1・2
8:20	8:20~ 受付開始			
9:00	9:10~9:20 開会挨拶 9:20~10:20 一般演題 地域支援 1A-01~06 座長：池上 陽子	9:20~9:50 一般演題 聴覚障害 I 9:50~10:20 一般演題 基礎研究	1B-01~03 座長：城間 将江 1B-04~06 座長：浦野 雅世	
10:00				
11:00	10:30~12:00 教育講演 1 超高齢社会における 聴覚障害の問題点 佐野 肇氏 司会：鈴木 恵子			10:30 ~ 15:30 ポスター 展示
12:00			12:10~12:40 自閉症スペクトラム障害 1P-01~05 言語障害(指導・支援) 1P-06~08 12:40~13:10 特別支援教育 1P-09~11 失語症・高次脳機能障害 1P-12~16	12:10 ~13:10 ポスター 質疑応答
13:00	13:20~14:20 ハートフルトーク STの娘は気切っ子 -気管切開した超低出生体 重児との日々-	山本 実菜氏 司会：伴 佳子		
14:00	14:30~15:20 一般演題 言語発達障害・読み書き 1A-07~11 座長：畦上 恭彦	14:30~15:20 一般演題 聴覚障害 II 1B-07~11 座長：中川 辰雄	14:30~15:20 一般演題 音声障害・構音障害・嚥下障害 1C-01~05 座長：西脇 恵子	ポスター 展示
15:00	15:30~17:00 実践セミナー コミュニケーション支援の ローテク・ハイテク -あきらめない・決めつけない- 高橋 宜盟氏、山本 直史氏 司会：東川 麻里			
16:00				
17:00	17:10~18:30 言語発達障害研究 分科会	17:10~18:30 吃音および 流暢性障害 研究分科会	17:10~18:30 重度重複障 害のある子 のコミュニ ケーション を考える 分科会	
18:00			17:10~18:30 口蓋裂 言語検査 講習会	17:10~18:30 会話分析 研究 分科会
19:00	18:40~20:00 懇親会 会場：1階食堂			

第2日目 5月13日(日)

	A 会場 3階 IPE ホール	B 会場 5階	C 会場 2階 医療衛生学部多目的室1・2	ポスター会場 3階チーム医療演習室1・2	1階 食堂
8:20					
9:00	9:00~10:30 教育講演 2 臨床研究への架け橋 -リサーチ・クエスチョンと 研究デザイン 鈴木 牧彦氏 司会：原 由紀				
10:00					10:00 ~ 14:00 重度重複障害のある子の コミュニケーションを考える 分科会主催のイベント
11:00	10:40~12:10 特別講演 体の違いを映す言葉 伊藤 亜紗氏 司会：石坂 郁代			10:30 ~ 15:10 ポスター展示	
12:00			12:20~12:50 AAC・ICT 2P-01~03 音声障害・嚥下障害 2P-04~07 12:50~13:20 言語発達障害(評価・指導) 2P-08~11 言語障害・聴覚障害(社会支援) 2P-12~15	12:20 ~ 13:20 ポスター 質疑応答	
13:00	13:20~14:20 総 会				
14:00		2B-01~03 座長：原 恵子			
15:00	14:30~15:00 一般演題 社会支援 2A-01~03 座長：岡本 朗子	14:30~15:00 一般演題 言語発達評価	14:30~15:30 一般演題 失語症・ 高次脳機能障害 2C-01~06 座長：市川 勝		
15:00	15:00~16:00 一般演題 自閉症スペクトラム障害 2A-04~09 座長：藤野 博	15:00~16:00 一般演題 吃音 2B-04~09 座長：小林 宏明			
16:00	16:00~ 閉会挨拶				
17:00					
18:00					

プログラム

特別講演 5月13日(日) 10:40～12:10

A会場(3階 IPE ホール)

司会：石坂 郁代(北里大学 医療衛生学部)

体の違いを映す言葉

伊藤 亜紗 東京工業大学 リベラルアーツ研究教育院

教育講演1 5月12日(土) 10:30～12:00

A会場(3階 IPE ホール)

司会：鈴木 恵子(北里大学 医療衛生学部)

超高齢社会における聴覚障害の問題点

佐野 肇 北里大学 医療衛生学部

教育講演2 5月13日(日) 9:00～10:30

A会場(3階 IPE ホール)

司会：原 由紀(北里大学 医療衛生学部)

臨床研究への架け橋

—リサーチ・クエスチョンと研究デザイン

鈴木 牧彦 北里大学 名誉教授

実践セミナー 5月12日(土) 15:30～17:00

A会場(3階 IPE ホール)

司会：東川 麻里(北里大学 医療衛生学部)

コミュニケーション支援のローテク・ハイテク
—あきらめない・決めつけない—

PS-1 コミュニケーション支援のハイテク

一般社団法人結ライフコミュニケーション研究所 理事・研究員 高橋 宜盟

PS-2 コミュニケーション支援のローテク

吉野内科・神経内科医院 言語聴覚士 山本 直史

ハートフルトーク 5月12日(土) 13:20～14:20

A会場(3階 IPE ホール)

司会：伴 佳子(重症心身障害児施設中川の郷療育センター)

STの娘は気切っ子
—気管切開した超低出生体重児との日々—

山本 実菜

一般演題(口頭発表)

第1日目 5月12日(土)

地域支援 9:20～10:20

A会場(3階 IPE ホール)

座長：池上 陽子(島田療育センター)

- 1A-01** 相模原市が取り組む「療育としての食支援」
—(1)食支援推進に向けた9年間の取組—

相模原市中央子育て支援センター 療育相談班 須賀多恵子

- 1A-02** 相模原市が取り組む「療育としての食支援」
—(2)地域に暮らす摂食ハイリスク児への取組—

相模原市南子育て支援センター 療育相談班 小俣 清香

- 1A-03** 相模原市が取り組む「療育としての食支援」
—(3)初期療育グループ利用児の摂食の課題について—

相模原市緑子育て支援センター 療育相談班 遠藤 文子

- 1A-04** 相模原市が取り組む「療育としての食支援」
—(4)第一陽光園の食支援の取組とその成果について—

相模原市立療育センター 陽光園 佐藤久美子

- 1A-05** 発達上の問題をもつ子どもの包括的な支援としての保育支援：
折り紙活動のコンサルテーションをとおして

帝京平成大学 野村 直子

- 1A-06** 訪問による重症心身障害児への言語・コミュニケーション訓練を経験して

あいりす訪問看護ステーション 木下 亜紀

言語発達障害・読み書き 14:30～15:20

A会場(3階 IPE ホール)

座長：畦上 恭彦(国際医療福祉大学 保健医療学部)

- 1A-07** 発達性ディスレクシア児の知的能力と音読検査による流暢性との比較・検討

平谷こども発達クリニック 榊 智史

- 1A-08** 教育相談及び医療機関で発達性読み書き障害が疑われた
小学生102事例の読み書き検査の結果

金沢星稜大学 人間科学部 河野 俊寛

1A-09 音韻記憶に著しい障害を認めた年長児1症例に対する言語指導

埼玉県立小児医療センター 保健発達部 遠藤 俊介

1A-10 読み障害成人1例における音韻的側面の特徴

日本学術振興会特別研究員 RPD (大阪大学) 迫野 詩乃

1A-11 言語障害と教科学習の問題：特異的言語発達障害児の長期経過からの分析

川崎医療福祉大学 医療技術学部 感覚教師学科 小坂 美鶴

聴覚障害 I 9:20～9:50

B会場(5階)

座長：城間 将江(国際医療福祉大学 成田保健医療学部)

1B-01 人工内耳装用児と健聴児の旋律識別と音楽の嗜好性に関する検討

国際医療福祉大学 言語聴覚学科 大金さや香

1B-02 包括的領域別読み能力検査による学齢聴覚障害児の日本語読み能力の現状

愛媛大学 教育学部 加藤 哲則

**1B-03 自閉症スペクトラム障害が疑われる聴覚障害学齢児について
—PARSとWechsler式知能検査を用いて**

国際医療福祉大学 福岡保健医療学部 言語聴覚学科 平島ユイ子

基礎研究 9:50～10:20

B会場(5階)

座長：浦野 雅世(横浜市立脳卒中・神経脊椎センター)

**1B-04 視覚障害者の歩行訓練についてのエスノメソドロジー・会話分析研究：
問主観的理解と触覚**

常盤大学 人間科学部 コミュニケーション学科 西澤 弘行

**1B-05 短文発話時における舌-口蓋接触圧の検討
～発話手法の差異による舌圧変動の観察～**

国際医療福祉大学 言語聴覚学科 落合 勇人

**1B-06 学生のコミュニケーション場面での発話音声評価
—実習指導者による主観的評価と音声分析の関係—**

福井医療短期大学 リハビリテーション学科 言語聴覚学専攻 新谷 純

座長：中川 辰雄(横浜国立大学 教育学部)

1B-07 軽度・中等度難聴児の補聴をめぐる課題

北里大学病院 耳鼻咽喉科・頭頸部外科 井上 理絵

1B-08 中等度難聴者の障害認識の経過に関する検討

県立広島大学 保健福祉学部 コミュニケーション障害学科 辛島 史織

1B-09 「よくしゃべるけれど聞こえない」若者の自己開示と自己権利擁護意識の発達について

京都光華女子大学 医療福祉学科 言語聴覚専攻 高井 小織

1B-10 一側性難聴による障害認識の発達変容に関する検討

目白大学 保健医療学部 岡野 由実

1B-11 補聴器装用支援ノートの試み

北里大学 医療衛生学部 鈴木 恵子

座長：西脇 恵子(日本歯科大学附属病院)

**1C-01 健常若齢者における声やのどに関する意識の実態調査
— 音声障害の予防と啓発に向けて —**

上智大学 言語科学研究科 言語学専攻 言語聴覚研究コース 森 隆範

1C-02 心因性発声障害の一例

新潟県厚生連 長岡中央総合病院 目黒 文

1C-03 50音表提示により、会話時の伝達方法を変化させた脊髄小脳変性症の一例

医療法人社団伊藤病院 せりがや訪問看護ステーション 小菅 直子

1C-04 ST介入後に誤嚥性肺炎となった患者の臨床的特徴

君津中央病院 古川 大輔

1C-05 バルーン球を用いた構音器官の交互反復運動の効果についての検証

社会医療法人宏潤会 大同病院 堀池 正太

第2日目 5月13日回

社会支援 14:30～15:00

A会場(3階 IPE ホール)

座長：岡本 朗子(社会福祉法人すずらんの会 ぱれっと)

2A-01 児童発達支援事業における言語聴覚士への要望について

社会福祉法人正夢の会 中野区療育センターゆめなりあ 志村みさと

2A-02 中高生の学習・コミュニケーション支援 —言語聴覚士が運営する個別学習支援室の活動報告—

個別学習エイル 三木江理奈

2A-03 特別支援教育のSTによる外部人材支援の実態と課題について —学校支援 ML の展開と学校との協働—

千葉県白井市子ども発達センター他 鈴木三樹子

自閉症スペクトラム障害 15:00～16:00

A会場(3階 IPE ホール)

座長：藤野 博(国立大学法人東京学芸大学 特別支援教育)

2A-04 自閉症の子の会話を指導するための理論的考察

NPO 法人コミュニケーション・アシスト・ネットワーク
ことばの相談室ひなたぼっこ 山本 正志

2A-05 自閉スペクトラム症幼児と母親との遊び場面における言語的交渉 —玩具の種類が与える影響—

東京学芸大学 教育学研究科 溝江 唯

2A-06 自閉スペクトラム症児の言語特徴 —ナラティブ「かえるさんどこいったの」における動詞に着目した分析—

東京医療学院大学 保健医療学部 青木さつき

2A-07 自閉症スペクトラム障害者の不適切コロケーション —自閉症スペクトラム障害者と定型発達者との評定間比較—

平谷こども発達クリニック 福田 純子

2A-08 二項関係場面における自閉スペクトラム症児の視線行動 —アイトラッカーを用いた検討—

大阪大学 島藤 安奈

2A-09 自閉症幼児の多職種連携の支援のあり方を探る

尚綱学院大学 三好 敏之

座長：原 恵子(上智大学 言語科学研究科 言語学専攻)

2B-01 小学生の物品呼称：単語属性の影響と呼称誤反応の検討

浴風会病院 リハビリテーション科 佐藤ひとみ

2B-02 ダイナミックアセスメントを用いた学習言語の評価法の検討：
年長・低学年を対象に

大阪芸術大学 田中裕美子

2B-03 英語習得初期段階における統合的フォニックスの指導効果検証
—小6から中1にかけて

新潟大学 教育学部 入山満恵子

座長：小林 宏明(金沢大学 人間社会研究域 学校教育系)

2B-04 吃音児における聴覚情報処理障害の併存に関する予備的検討
聞こえの困難さ検出用チェックリストを用いて

首都大学東京大学院 人文科学研究科 言語科学教室 矢田 康人

2B-05 吃音の進展した学齢児に対する小学校高学年から中学校期の指導

福岡教育大学 特別支援教育講座 見上 昌陸

2B-06 医療機関を受診する吃音高校生群の特徴と言語聴覚療法の経過

北里大学東病院 リハビリテーション部 吉澤健太郎

2B-07 成人期における吃音のインパクトと過去の経験との関連

国立障害者リハビリテーションセンター 酒井奈緒美

2B-08 接客・電話応対に困難を感じ、急激に苦悩を増した成人吃音女性2事例
～困難事態への具体的対策の重要性～

近畿大学医学部附属病院 久保田 功

2B-09 吃音者の就労支援のための理論的モデルの作成に向けて：
面接法を実施した5事例からの検討

医療法人社団富家会 富家病院 リハビリテーション室 飯村 大智

座長：市川 勝(さがみりハビリテーション病院)

2C-01 失語症会話パートナーのグループ活動での支援技法

首都医校 小谷 朋子

2C-02 失語症者によるヘルプマークの活用状況と普及活動の報告

地域活動支援センター すももクラブ 青木 智恵

2C-03 失語症者のためのコミュニケーションノート評価法の作成と使用要因の検討

上智大学 言語科学研究科 言語学専攻 言語聴覚研究コース 梶岡 理沙

2C-04 軽度失語症中国語話者の評価訓練におけるアプリの活用

横浜新都市脳神経外科病院 リハビリテーションセンター 田中 果南

2C-05 当院外来での ICT 機器による遠隔言語訓練の試み

君津中央病院 言語聴覚室 村西 幸代

2C-06 左視床背内側核梗塞病変により健忘症状を呈した1例

新潟大学脳研究所 相場恵美子

ポスター発表

第1日目 5月12日(土) 12:10～13:10

ポスター会場(3階 チーム医療演習室1・2)

自閉症スペクトラム障害 12:10～12:40

- 1P-01** ABA(応用行動分析)により対象物の聴覚的弁別能力を獲得した
重度自閉症児への訓練過程からの考察
児童発達支援事業所 マママとまママ 林 文博
- 1P-02** 自閉スペクトラム症におけるオンライン推論能力の特徴
大阪大学大学院 連合小児発達学研究所 赤塚 望
- 1P-03** やり・もらいゲームの積み上げ
—自閉症の子とゲームでコミュニケーション その7—
NPO 法人コミュニケーション・アシスト・ネットワーク
ことばの相談室ひなたぼっこ 山本 正志
- 1P-04** ASDのある児童に対する疑問詞構文への応答の指導
—思考プロセスの視覚化が有効だった一例—
国立病院機構 さいがた医療センター 細井 雪帆
- 1P-05** 自閉スペクトラム症児の語彙理解と身体感覚との関係
—オノマトペを用いた検討—
国際医療福祉大学 成田保健医療学部 言語聴覚学科 佐々木香緒里

言語障害(指導・支援) 12:10～12:40

- 1P-06** 吃音症状を有する場面緘黙児1例における緘黙症状の縦断的变化
長野大学 社会福祉学部 高木 潤野
- 1P-07** 口蓋裂を伴う上顎体症例の長期にわたる言語指導経過の検討
大阪母子医療センター 口腔外科・リハビリテーション部門 井上 直子
- 1P-08** アテトーゼ型脳性麻痺者の言語治療の長期予後(4):面接調査を中心に
藤女子大学 鈴木真知子

- 1P-09** 集団になじめない自閉症児の教育的ニーズに応じた自立活動の指導内容の検討
茨城県つくば市立竹園西小学校 奥沢 忍
- 1P-10** 特別支援学校における言語聴覚士巡回相談の調査
大阪府立 支援学校 古樋 咲世
- 1P-11** 神奈川県立特別支援学校における自立活動教諭(言語聴覚士)の活動―校内での連携について―
神奈川県立特別支援学校 奥 玲子

- 1P-12** 側臥位姿勢方向、提示方向、読み方向が文字の読み作業に及ぼす影響
愛知淑徳大学 健康医療科学部 医療貢献学科 言語聴覚学専攻 横井希未子
- 1P-13** 発話に含まれている「フィラー」の聴理解への影響―若年者と高齢者の比較―
愛知淑徳大学 健康医療科学部 藤代茂奈美
- 1P-14** 失語症者における授受動詞「あげる」「くれる」「もらう」の理解―健常者と比較して―
社会医療法人大雄会 荻野 真希
- 1P-15** 健常高齢者と若年者の日常記憶に関する自己評価―記憶課題の成績との関連―
愛知淑徳大学 健康医療科学部 長坂くるみ
- 1P-16** 再就職希望の失語症を含む高次脳機能障害を呈した症例に対する訓練
学校法人 昭和大学藤が丘リハビリテーション病院 星野 奈津

第2日目 5月13日回 12:20～13:20

ポスター会場(3階 チーム医療演習室1・2)

AAC・ICT 12:20～12:50

- 2P-01** 気管切開カニューレ留置状態で高次脳機能障害を伴った症例に対し、AAC 適応を検討した経過
赤間病院 横山 典子
- 2P-02** 記憶障害を伴う純粋失読一例が電子新聞を音声読み上げ機能を用いて読字するまでの習得過程
県立広島大学 保健福祉学部 コミュニケーション障害学科 津田 哲也
- 2P-03** ICT 導入により活動・参加に変化がみられた80歳代の四肢麻痺・DLB 症例の報告
医療法人社団永生会 永生病院 五十嵐将隆

音声障害・嚥下障害 12:20～12:50

- 2P-04** パーキンソン病患者に対する DVD を用いた発声自主トレーニングの試み
国立精神・神経医療研究センター病院 身体リハビリテーション部 中山 慧悟
- 2P-05** 85歳以上の超高齢脳卒中患者の誤嚥性肺炎に関する検討—SCU 入室症例について—
北里大学病院 耳鼻咽喉科・頭頸部外科 岡部 早苗
- 2P-06** COPD(慢性閉塞性肺疾患)における増悪と呼吸機能及び嚥下機能の関係
北里大学大学院 医療系研究科 田澤 悠
- 2P-07** 在宅を意識した急性期病院における ST の役割—重度嚥下障害患者の一症例の経験をもとに—
北里大学メディカルセンター リハビリテーションセンター 根岸 萌子

言語発達障害(評価・指導) 12:50~13:20

- 2P-08** 音韻表象の弱さが顕著であるレイトトーカーに対する指導経過
医療法人社団 白美会 白根大通病院 秋元 瑞帆
- 2P-09** コミュニケーション・スキルからみた発達指標作成の試み
この街きっず学園 野沢由紀子
- 2P-10** 小学生の書いたひらがなの判読性に関する調査研究
北里大学大学院 医療系研究科 医科学専攻
感覚・運動統御医科学群 言語聴覚情報科学 松井 聡史
- 2P-11** 読み聞かせ習慣と幼児の言語発達・問題行動および
養育者のストレスとの関連
東北大学加齢医学研究所 認知機能発達寄附研究部門 松崎 泰

言語障害・聴覚障害(社会支援) 12:50~13:20

- 2P-12** 学校生活期の失語のある子どもたちの支援ニーズ①：
健康関連 QOL 評価による検討
千葉県チバリハビリテーションセンター 廣瀬 綾奈
- 2P-13** 学校生活期の失語のある子どもたちの支援ニーズ②：
学校生活の実態と課題の検討
千葉県チバリハビリテーションセンター 廣瀬 綾奈
- 2P-14** 本人の願いを大切にしたキャリア教育
川崎医療福祉大学 佐藤 隆也
- 2P-15** 聴覚障害者の日常生活での困難さの予測に関する検討
国際医療福祉大学 言語聴覚学科 関口 敦子



特別講演

体の違いを映す言葉

伊藤 亜紗氏

東京工業大学 リベラルアーツ研究教育院

司 会：石坂 郁代(北里大学 医療衛生学部)

5月13日(日) 10:40～12:10

A会場(3階 IPE ホール)

演者 プロフィール

伊藤 亜紗(いとう あさ)氏

2011年 東京大学大学院 人文社会系研究科 修了(文学博士)

2013年 東京工業大学 リベラルアーツセンター 准教授

2016年 同 リベラルアーツ研究教育院 准教授

専門領域：

美学(身体論、芸術論)

とくに視覚障害と吃音に関する身体論的アプローチ

所属学会：

美学会

障害学会

著 書：

『どもる体』医学書院, 2018(予定)

『目の見えないアスリートの身体論』潮出版, 2016

『目の見えない人は世界をどう見ているのか』光文社, 2015

『ヴァレリーの芸術哲学、あるいは身体の解剖』水声社, 2013

体の違いを映す言葉

伊藤 亜紗

東京工業大学 リベラルアーツ研究教育院

障害と関わるうえで、健常者と「同じ」を目指すことは重要だが、それと同じくらい「違い」に目を向けることも重要である。とはいえ、その人の体の使い方や感じ方は、必ずしも外から見てすぐに分かるとは限らない。そこで手がかりになるのが「言葉」である。言葉の意味や使い方のズレが、お互いの体の違いを照らし出し、さらにはその違いが触媒となって、豊かなコミュニケーションへと発展することがある。「言葉の違い」がどのように「体の違い」を映し出すのか、視覚障害と吃音を手がかりに、身体論の視点から考える。

たとえば、ある小説に「テーブル席が5つあるレストラン」という描写があったとしよう。これは晴眼者にとっては「ごく自然な」描写である。ところが全盲の視覚障害者がこれを読むと、「細かい」と驚く一方で、「必要なことが描かれてない」と感じることもあると言う。「テーブル席が5つ」という情報は視覚障害者にとって普段意識していない情報であり、逆に椅子を引いた時の感触や座り心地が描かれていないのは、彼らにとっては「リアリティに欠ける」のである。これは、小説の描写に対する感じ方の違いをきっかけにして、全盲の視覚障害者と晴眼者のあいだの、行動パターンや対象認知方法の違いが明らかになった例である。

こうした違いを逆手にとった美術鑑賞の方法として「ソーシャル・ビュー」がある。これは、視覚障害者と晴眼者が6-7名のグループを作り、言葉を使って対話をしながら作品を鑑賞する方法である。実際に参加すると、多くの晴眼者が、「語れなさ」に愕然とする。絵画の色ひとつとっても、晴眼者どうしでは見ることによって共有したとを感じるが、視覚障害者に対してとなるとそうはいかない。晴眼者は、身体的条件の違い相手に伝えるために、ふだんの言葉づかいをスイッチする必要に迫られるのである。ソーシャル・ビューは、体の条件の違いが触媒となってコミュニケーションが促進される好例である。

一方、言葉の「意味」ではなく「発話のメカニズム」に体の違いが現れるのが吃音である。吃音は音レベルの非流暢性が注目されがちだが、その背後には、体そのもののどもりがある。実際に当事者にインタビューをしてみると、連発時の「タガが外れた体を俯瞰している感じ」や、言い換えをするときの「体をだます感じ」など、吃音当事者特有の、体との付き合い方があることが分かる。外からは見えにくい「体の違い」を丁寧掘り起こすことで、より当事者の経験や感覚に寄り添った関わり方のヒントが見えてくるのではないかな。

A page of handwriting practice paper with two columns of horizontal dashed lines. Each column contains 20 lines, providing a guide for letter height and placement.

一 般 演 題

(口頭発表)

1A～1C

第1日目 5月12日(土)

A会場(3階 IPE ホール)

B会場(5階)

C会場(2階 医療衛生学部多目的室1・2)

1A-01

相模原市が取り組む「療育としての食支援」

一(1)食支援推進に向けた9年間の取組一

須賀 多恵子¹⁾、佐藤 久美子²⁾、遠藤 文子³⁾、小俣 清香⁴⁾、森位 梨紗子¹⁾、寺田 美智子⁵⁾、田中 聖子¹⁾

- 1) 相模原市中央子育て支援センター 療育相談班
- 2) 相模原市立療育センター 陽光園
- 3) 相模原市緑子育て支援センター 療育相談班
- 4) 相模原市南子育て支援センター 療育相談班
- 5) 元相模原市立療育センター 陽光園

【はじめに】相模原市の療育は長い間市立陽光園が担ってきたが、政令指定都市移行に伴う組織改編、児童福祉法等法律の改正、市の総合計画等により、現在は主に陽光園(医療型児童発達支援センターを含む)と陽光園から分かれた3区(緑区・中央区・南区)子育て支援センター療育相談班(以下、療相班)、3区に各々開設された民間福祉型児童発達支援センター(以下、民間児発)、民間事業所および医療機関が担っている。市の療育体制が変化中、平成21年に陽光園言語聴覚士と栄養士、保健師が中心となり発足した「陽光園食事支援検討会」は、その後目的を変え「療育センター食支援推進委員会」として現在に至る。今回は約9年間の食支援推進に向けた取組を療育体制の変化と照らし合わせて示し、行政で働く言語聴覚士の立場で課題と展望を報告する。

【活動内容】

- ① 食事支援検討会(H21～25)：当時の陽光園(知的通園、肢体通園、生活介護事業所、外来相談)の食支援の課題改善と、食支援に対する職員の意識統一を目的としていた。
- ② 食支援推進委員会(H26～現在)：「サポートを必要とする人も安心しておいしく楽しく食を味わえる相模原市」をめざして、食支援の推進に取り組んでいる。具体的には、職員に対しては、対象を母子保健分野の保健師や民間児発の職員に拡大した講習会を実施し、保護者に対しては、児の介助や摂食機能にあった食形態の調理方法の講習会の中で、食事場面上手活用して運動・認知・言語・コミュニケーション等の発達促進につなげようと呼びかけている。また事例検討や他施設の視察を行い、今後の食支援のあり方について検討を重ねている。

【今後の展望】

- ① 小児の食支援を全体的な発達支援と捉え、初期段階の療育のかなめとして位置付けていく。
- ② 摂食機能障害ハイリスク児が地域で安全に豊かに生活するための連携を進める。
- ③ 発達障害児や知的障害児の食支援ができる地域社会を育てていく。

1A-02

相模原市が取り組む「療育としての食支援」

一(2)地域に暮らす摂食ハイリスク児への取組一

小俣 清香¹⁾、須賀 多恵子²⁾、遠藤 文子³⁾、寺田 美智子⁴⁾

- 1) 相模原市南子育て支援センター 療育相談班
- 2) 相模原市中央子育て支援センター 療育相談班
- 3) 相模原市緑子育て支援センター 療育相談班
- 4) 元相模原市立療育センター 陽光園

【はじめに】保護者の障害受容が不十分なまま、乳児期から地域の保育園に入所している重度重複障害児に出会うことがある。今回、療育機関と関わることなく保育園に所属した事例の経過をもとに、療育の入口である子育て支援センターでのSTの役割について検討した。

【事例】4歳男児。診断は脳性麻痺(痙直型タイプ)と両側高度難聴。両親と兄の4人家族で1歳時から保育園に入所。児は未定頸で随意的な運動困難であるが、他者への関心は高く、発声や表情で快・不快および簡単な応答等の表出が可能。摂食については経口摂取で食への意欲も高いが、喘鳴や頻繁なムセなど重度の摂食嚥下障害が疑われた。

【経過】2歳時に通っていた保育園から退園を促され転園したことを機に当センター支援開始。約2年かけ初期療育を重ねながら保護者と継続した療育支援の必要性について話し合い、保育園をベースに週1回の医療型児童発達支援センター利用に至った。

【STの支援内容】難聴については他機関利用。STは医療型児童発達支援センター利用開始までの約1年間、食形態や姿勢・介助方法等の見直しや摂食機能の発達とリスクについて一般的な情報を保護者に伝え、医療機関での摂食相談に繋げる取り組みをした。また、定期的に保育園に出向き、給食場面で摂食やコミュニケーションの支援を実施した。

【まとめ】食支援を切り口に保護者と保育園の両方に働きかけ、療育に繋がりにくかったケースを療育や医療に繋ぐことができた。療育の入口で働くSTは、重度重複障害ゆえに選択肢が狭まらないよう保護者のニーズや要望に寄り添いながら、一方で児の将来を見据えて関係機関と連携し、児にとって好ましい環境に繋げていく役割があると思われた。「コミュニケーション発達に重要な要素を含む食事」が安全に摂れるよう、園と連携し保護者に継続して働きかけることが児の発達や保護者の療育への意識の向上に有効であると思われた。

後援・展示・寄付 一覧

後 援

神奈川県言語聴覚士会

神奈川県教育委員会

相模原市教育委員会

日本吃音・流暢性障害学会

展 示

(五十音順)

エイド 株式会社

株式会社 エスコアール

有限会社 オフィス結アジア

株式会社 学苑社

神奈川リオネット販売 株式会社

ソノヴァ・ジャパン 株式会社

寄 付

株式会社 大修館書店

第44回日本コミュニケーション障害学会学術講演会 準備委員

会 長 石坂 郁代 北里大学

事務局長 村上 健 北里大学

準備委員 鈴木 恵子 北里大学

東川 麻里 北里大学

原 由紀 北里大学

秦 若菜 北里大学

水戸 陽子 北里大学

第44回 日本コミュニケーション障害学会学術講演会
予稿集

2018年4月4日発行

発行者：第44回日本コミュニケーション障害学会学術講演会 会長
石坂 郁代

事務局：〒252-0373 神奈川県相模原市南区北里1-15-1
北里大学医療衛生学部 リハビリテーション学科 言語聴覚療法学専攻内
E-mail：jacd.meeting44@gmail.com

出 版：株式会社セカンド
〒862-0950 熊本市中央区水前寺4-39-11 ヤマウチビル1F
TEL：096-382-7793 FAX：096-386-2025
<http://www.secand.jp/>

第44回日本コミュニケーション障害学会学術講演会
事務局

〒252-0373 神奈川県相模原市南区北里1-15-1
北里大学医療衛生学部 リハビリテーション学科
言語聴覚療法学専攻内
E-mail: jacd.meeting44@gmail.com